

紙漣沢にあった県内最古の寺子屋

津軽最初の寺子屋を開いた
長慶上皇側近の子孫

寺子屋とは、地域の子どもたちに読み書きや算術、礼儀作法などを教える、江戸時代以前のいわば学校である。当初は寺院で教えることが多く、僧侶が師匠を務めていた。

その寺子屋が青森県内で最も早く設置されたのが、相馬の紙漣沢地区だったことをご存じだろうか。現在、紙漣沢地区の山越に「寺子屋跡」の案内板が建っているが、これは江戸時代にあった寺子屋の跡で、それよりかなり古い天正年間（一五七三～一五九二）に紙漣沢地区の堰根に寺子屋が開かれたと伝わる。明治二十三年（一八九〇）から同二十五年にかけて旧文部省が編纂した『日本教育史資料』には、「天正年間に修験弘田養徳が紙漣沢村に寺子屋を開いた」とあり、これが青森県内で最古の寺子屋とされている。



紙漣沢堰根の某所にある弘田氏一族の墓。わかりにくいのが、左の石に「廣田」と彫られている

弘田養徳は、元中二年（一三八五）ごろ紙漣沢に來られた長慶上皇の側近だった弘田刑部の子孫だと言われる。前出の『日本教育史資料』によれば、二十五人の寺子がいて、寛文年間（一六六一～一六七三）ごろまで約一〇〇年間続いたという。長慶上皇は学問に長じていたとされるから、その側近たちも教育の大切さを理解していたのだろう。

津軽の発展に貢献した
弘田氏の子孫

紙漣沢の寺子屋伝説もあながち単なる言い伝えとは思えない。というのも、紙漣沢堰根の某所に、弘田氏子孫の墓が残されているからだ。写真ではわかりにくいかもしれないが、墓石には「廣田」と刻まれている。代々付近の住民によってきちんと管理されてきた。養徳が開いた寺子屋も、おそらくこの墓の付近にあったのだろうと考えられている。一説には、養徳よりも古く天文年間（一五三二～一五五五）に鹿内某によってこの付近に寺子屋が開かれたとの説もあるが、資料等での確認はできない。とここで、弘田氏の子孫はその後、「広田」に改名。藩政時代には、子孫の一人が現在の五所川原市広田付近の開墾に尽力し、広田村の開祖となったという。かつては、五所川原市の人々が大型バスでやって来て、紙漣沢堰根某所の墓をお参りに訪れていたそうだ。県内最古の寺子屋をはじめ津軽の発展に大きな役割を果たした広田一族の墓を、地域で守っていききたいものだ。（文責・加賀新一郎）

凸凹新聞

2023年12月号 Vol. 4（2023年12月27日発行）

◆発行者

相馬凸凹学会（代表・加賀新一郎）

〒036-1592

青森県弘前市大字五所字野沢41番地1

（弘前市相馬庁舎内）

電話：090-3102-6110（地域おこし協力隊）

E-mail：souma.chiikiokosi@gmail.com

【参考文献】

三浦稔『わがふるさと』、相馬村誌編集委員会編『相馬村誌』（相馬村）、鳴海恒男『相馬村史』（津軽書房）、文部省編『日本教育史資料』、羽賀与七郎「津軽信政とその文教」（研究論文）

協力：大場武雄さん、下山とみ子さん

相馬の庚申塔



こんにちは！
 十月から相馬凸凹学会の新会員になった木村と申します。
 神社が好き、お寺が好き、そして石が大好きで、庚申塔から館跡まで興味のあるところにはどんどん出かけ、思いのままにとことん突き進んでいくタイプです。相馬地区には古くからの習わしや言い伝えがたくさんあって、相馬に乘ってから仕事の合間を縫っていろんな場所をめぐるつもりです。そのなかから少しずつですが、写真とともに紹介していきたいと思えます。相馬の歴史や伝承を、地域の皆さんと一緒に後世に残していければいいですね。といっても、まだ相馬に来たばかりですので、これから皆さんにいろいろ教えていただければうれしいです。よろしくお

石マニア・木村の相馬探訪 その1



相馬地区を車で走ると庚申塔を目にしますが、他の地域と比べると大きくて見応えがあり驚きます。昔から大きい石が採れていたからなのか、お岩木山に見立てているのか、どちらにしても日頃から大事にしているのがよく分かります。

春、秋彼岸には、庚申塔の前で百万遍の数珠回しを今でも行っているそうで、石マニアの私にとって、古きものを大事にされていることに敬愛の念を抱きます。

案内板には庚申塔の説明の他に、15カ所に25基あると表示されていました。これは行かねばっ！ 先人の想いを実際に感じたいっ（笑）。

おいさもあるや〜という相馬地区の方、情報お待ちしております！

一丁木の大公孫樹（オオイチョウ）



地区の方から教えていただいた樹齢???年のオオイチョウ。なかなか見つけられずにいたのですが、秋晴れの中、ようやくたどり着くことが出来ました!! JA相馬村相馬支所の裏手ですが小道に入るちょっと分かりにくい場所です。



昔は作沢川・藍内川の合流点になっていて、この樹に舟を繋いだと語り継がれているそう。

この辺りが川だったとは……想像がつかず、地図を見てみましたが、やっぱり想像が付きませんでした（笑）。

樹の下には3つの祠

今回は残念ながら落葉した後でしたが、来年は黄色く色づいた頃にリベンジしたいです。ちなみに公孫樹と書いてイチョウと読むそうで、今回初めて知りました。植樹後、孫の代になったら実のなる樹という意味があるのだそうです。

●相馬凸凹学会とは

津軽平野の南端に位置し、台地と平地が入り組んだ凸凹地形の相馬の歴史を地形・地理・地名といった新たな視点も加えて調査・研究・記録するサークル。